

「墨田区都市計画マスタープラン」改定区民ワークショップ 区民ミーティングの概要

平成19年度

■区民ミーティングの概要

平成18年度から区民ワークショップで検討した内容について、メンバーと地域の区民とが意見交換し、その意見も含めてまとめることにより、区民ワークショップの提案がより多くの区民の声を反映した内容にするため、「区民ミーティング」を開催しました。

地域別に合計6回開催した区民ミーティングでは、回を経る毎に多くの区民の方が集まり、最終的にはのべ132人の参加者がありました。各回の参加者数及び日程、会場は以下の通りです。

	日程	会場	参加者数（WSメンバー含む）
A	7月27日(金)	八広図書館集会室 ホール	35人
B	7月24日(火)	曳舟文化センター 第一会議室	29人
C	7月23日(月)	立花四丁目集会所 多目的室	21人
D1	7月19日(木)	家庭センター 第一講習室	12人
D2	8月2日(木)	業平三丁目集会所 多目的室	18人
D3	7月20日(金)	みどりコミュニティセンター 会議室	17人

*開催時間：各会場午後7時から午後9時まで

■当日の流れは・・・



会場の様子。まずはスライドを使って
検討内容の説明です



ワークショップメンバーからの
説明にも熱が入ります



パネルを見ながら
「この部分が少し気になる」



来場の方々とワークショップメンバーとで
意見交換を行いました

■次回の予定は・・・

区民ミーティングで出された意見や指摘を受けて、ワークショップの提案の内容をどのように修正していくかを検討します。

(注) ワークショップは事前に参加登録をいただいた方にお集まりいただき、これからのまちづくりと20年後の墨田区の将来像について検討しています。参加登録をしていないけれどもワークショップの内容や検討中の案に対するご意見・ご感想・お問い合わせなどがあるという方は toshikeikaku@city.sumida.lg.jp (墨田区都市計画課) までご連絡ください。

■Aグループの内容は・・・（提案内容といただいた意見の一部をご紹介します）

◎ Aグループ：荒川沿いの墨田・八広地区に堤通・東向島地区の一部を加えた、概ね明治通り以北の区の北端部に位置するエリア



このグループは、地域を「幹線道路内側（路地）」と「幹線道路沿道」に分けて、それぞれ「道路を広げずに防災性を高めるまちづくり」「路地のまちとつながる一体感のあるまちづくり」を主要なテーマに提案をまとめています。

<主要な提案内容の抜粋>

～小さな敷地でも豊かな生活を送るためのモデルやルールをつくる～

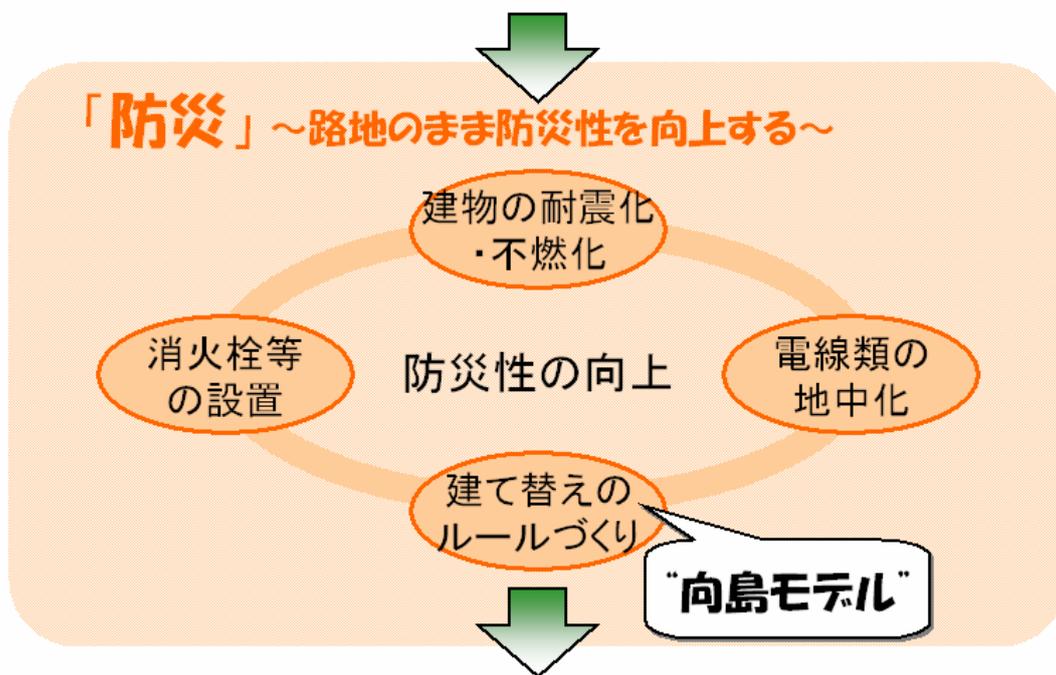
- ・地域の合意のもと、今の道幅のまま建て替えができるようなルールをつくる（例、中央区月島）
- ・車が入れない路地を決める／通す場合も「時間規制」や「一方通行」などのルールをつくる
- ・地域集会所などの公共施設を使って、歴史を感じさせるような建物の建て方のお手本（“向島モデル”）をつくる

～古いものと新しいものが調和・共存するまちをつくる～

- ・親子の近居やUターンの受け皿、延焼遮断帯の形成などに貢献するマンションを真っ向から否定しない
- ・高層マンションを許容するエリアを面的に指定するようなルールづくりを図る

↓当日発表に使用したスライド

幹線道路内側（路地）のまちづくり①



墨田区都市計画マスタープラン改定
区民ミーティング資料

8 ページ

<いただいた意見の抜粋>

- 鐘ヶ淵駅周辺の活性化のために東武線の高架化と駅前広場の整備は欠かせない視点だと思う。
- 先に道路後退した人が損をするのは良くない（後退しない建物が多い）。高い建物が心配ならば別途高さ制限をすればよい。

■Bグループの内容は・・・（提案内容といただいた意見の一部をご紹介します）

◎Bグループ：東向島・向島・京島といった密集市街地のまちづくりと曳舟・押上・業平橋といった大規模開発が並んだ区の中央部に位置するエリア



このグループは、防災や観光、定住とあらゆる分野と密接に関連する「みち」を中心に検討を進め、「歩いて暮らす地域」を基本に「路地と長屋の活用」などの方針を提案しています。

<主要な提案内容の抜粋>

～長屋などにおける暮らし方や歩いて暮らすまちのスタイルを活かした定住環境づくり～

- ・補修や改修を行いながら、住みたい人と所有者をつなぐ“（仮称）古家バンク”などの仕組みをつくり、住み続けられる長屋のあるまちを目指す
- ・高齢者が外に出て歩きたくなるような「みち」づくり（草の生えた舗装など／一休みできるベンチの設置）

～長屋、路地、隅田川などの地域の資源を活かした景観づくり～

- ・舗装や道沿いの建物のデザインの統一、電線の地中化などにより「みち」が形作られた時代をイメージさせる景観づくりを行う
- ・高さ規制や分棟型の推奨など地域にあったマンションの建て方を誘導し「路地」や「長屋」の魅力を残す
- ・隅田川対岸や川面からの視線を意識した景観づくりとして、首都高橋脚の緑化や川に顔を向けた建物の建て方の誘導、川沿いの倉庫の更新などを行う

↓当日発表に使用したスライド

テーマ別のまちづくり④ 景観

長屋・路地、隅田川などの地域の資源を活かした景観づくり

- ・路地や長屋を大切にし、景観づくりに活かす
- ・「みち」がつくられた時代をイメージする舗装や電線地中化
- ・隅田川からみた景観づくり
- ・路地と調和するマンションの建て方の誘導

墨田区都市計画マスタープラン改定
区民ミーティング 資料



11

<いただいた意見の抜粋>

- 人力車や舟（←反対意見もあり）、ミニバス、亀戸線などを利用して人を集めたりまちをまわってもらうのが良い。
- 東武伊勢崎線高架の煉瓦造りを活かした洒落た歩行者道整備を考えてはどうか。
- 桜橋を道路橋にするなどの渋滞対策を考える必要があるのではないか。

■Cグループの内容は・・・（提案内容といただいた意見の一部をご紹介します）

◎Cグループ：小村井、東あずまの2駅を中心に広がる立花・文花地区に旧中川で結ばれた東墨田地区を加えた、区の東端部に位置するエリア



このグループは、「墨田区の外れ」の「隠れた良いものがある」「近年大きく姿を変えつつある」地域に「住む人を集める」「来る人を集める」ための方針やアイデアを提案しています。

<主要な提案内容の抜粋>

～旧中川の活用～

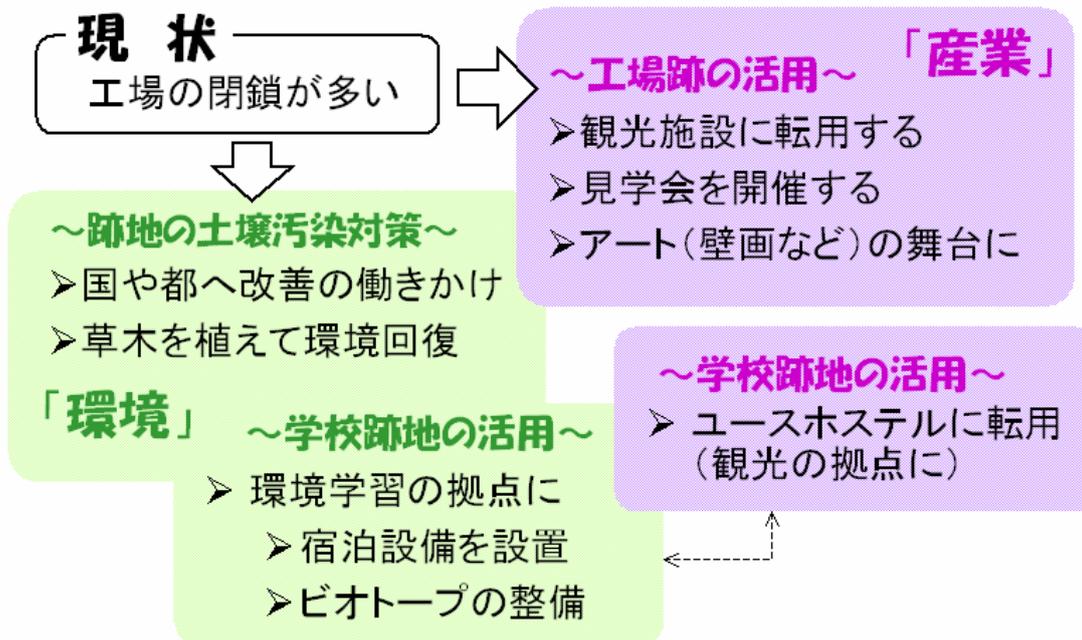
- ・きれいになった旧中川を今よりももっと良い場所とするため、遊歩道の全線開通やトイレ、スロープの整備を進めるほか、季節の花の栽培など住民活動の舞台としての活用を検討する
- ・スポーツ健康センターなどの施設が集まるエリアと川とのつながりをつくる

～地域内の優れた施設の積極的な活用とPR～

- ・地域内に多い学校跡地や廃工場などを宿泊施設（ユースホステル等）や博物館などに再生する
- ・きれいな施設や大きな公園など他にない場所を活用したイベントや住民活動を展開する

↓当日発表に使用したスライド

来る人を集める方策②「産業」～「環境」



<いただいた意見の抜粋>

- 旧中川の整備は観光というよりは「住みやすい環境づくり」を目指して活動してきた結果である。
- 学校跡地の活用を検討するのも良いが、避難場所が減るのは困る。
- 今日のこのような提案を実現するためにみなが積極的に取り組んでいくことが大事である。